

大鹿村議会だより

第27号 平成31年4月15日 発行：大鹿村議会 TEL：0265-39-2001

平成31年2月――

大鹿村議会 臨時会

平成31年大鹿村議会第1回臨時会が2月12日に1日間の会期で開会されました。付議事件1件が上程され、原案どおり可決されました。

付議事件

議案第1号 平成30年度大鹿村一般会計補正予算(第6号)について

▼昨年9月の台風で被災した村道沢井線の災害復旧事業のため債務負担行為の期間及び限度額を定めるものです。



村道沢井線被災状況

平成31年3月――

大鹿村議会3月定例会

平成31年3月大鹿村議会定例会が3月8日から19日までの12日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、付議事件15件、議員発議1件で、すべて原案どおり可決・同意されました。請願・陳情は請願1件、陳情1件で、請願1件は採択、陳情1件は不採択となりました。また前回継続審査となっていた請願1件は不採択となりました。

付議事件

議案第1号 長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について

議案第2号 大鹿村介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第3号 家畜診療費及び手数料徴収条例を廃止する条例の制定について

議案第4号 平成30年度大鹿村一般会計補正予算(第7号)について

議案第5号 平成30年度大鹿村営水道特別会計補正予算(第6号)について

議案第6号 平成30年度大鹿村介護保険特別会計補正予算(第3号)について

議案第7号 平成31年度大鹿村一般会計予算について

▼平成31年度の一般会計当初予算は総額20億9000万円、前年比13.6%増。主な新規事業は次頁の表のとおりです。詳細は「広報おしか」4月号をご参照ください。保育所建て替え事業について仮設保育所の設置場所を懸念する質疑がありました。

議案第8号 平成31年度大鹿村国民健康保険特別会計予算について

議案第9号 平成31年度大鹿村立診療所特別会計予算について

議案第10号 平成31年度大鹿村営水道特別会計予算について

議案第11号 平成31年度大鹿村介護保険特別会計予算について

議案第12号 平成31年度大鹿村後期高齢者医療特別会計予算について

議案第13号 建設工事請負契約の締結について

▼村道沢井線災害復旧事業

議案第14号 大鹿村固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めるについて

▼小原寿夫さんが同意されました。

議案第15号 大鹿村副村長の選任につき同意を求めるについて

▼長尾勝さんが同意されました。

請願

1 沖繩の民意を尊重し、辺野古埋め立て工事の再検討を

求める請願

▼採択

前回継続案件 国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願書

▼賛成3人、反対3人で議長裁決により不採択

1 トビガス残土置場候補地に関する陳情

陳情

▼賛成3人、反対3人で議長裁決により不採択

再検討を求める意見書の提出について

一般質問



秋山光夫議員

*儀内路基盤整備事業について

質問 国道152号儀内路周辺で、基盤整備のため青木川非常口ヤード脇の既存残土3万7000立米で、国道の路面と同じ高さに整備されるとの説明だったが、この量で足

議員発議

発議第1号 沖縄の民意を尊重し、辺野古埋め立て工事の

平成31年度主要新規事業

- ・村制130周年記念事業
- ・総合戦略策定
- ・循環バス・バス停等整備
- ・子ども子育て支援計画策定
- ・自殺対策計画策定
- ・健康ポイント事業
- ・保育所建設整備事業
- ・商工業創業支援事業補助金
- ・入学祝金

りるのか。国道と平面的に突きつけられるものかどうか確認させていただきたい。

終了後さらに分杭峠方面の基盤整備事業を継続することができれば、通年通行可能な国道152号線整備促進の要望活動において強力なアピールを増す。災害復旧の残土、リニア工事の残土利用も小渋線を通行する残土運搬車両の台数削減を図り、鹿塩方面の方々にも協力いただくと、村の一体感が生まれるものと考えている。検討の余地は十分にあると思うので、できる方法を探し出していきたい。

基盤整備終了後の国道の沈下、損傷の補修の予定も併せてお聞かせいただきたい。

村長 この前の説明会でも図示させていただいて、同じ高さにするというのが大前提です。ただ、それが即引き続いて国道改良で舗装ができて広くなるということは、県との調整がありますので、その点のご理解いただきたい。

次に将来的な意味合いですが、意見のとおりかと思いますが、

分杭峠までは非常に長い区間です。常に部分的にでも改良を進められるよう、県等に要望を継続しているところです。今後改良要望を続けていくことは従前通りです。

舗装面等の傷みについては、現状相当の傷みがありますが、国道ですので、道路管理者である県と協議しながら、できるだけ早く対応するよう求めています。

*村民ファーストの行政を望む

質問 村が行う事業、県や国が行う事業等、事前の説明不足が誤解を招いているように感じる。工事を直接手がける業者が事前に地元住民に工事説明を行っているが、特に下請け業者に関しては事前の説明が不足している感がある。苦情が出て慌てて挨拶とおわびと説明が一緒くたになつて行われている例もある。村から業者に対し、事前に丁寧な工事説明を行うよう徹底することが大事だと考える。

地元からの要望を真摯に受け止め、その内容は是非を十分検討し、設計施工の前に、結果を必ず要望者に返信する努力が村民ファーストにつながらと思う。

JR東海の懇談会についても、非常に説明不足で実行までの日数の余裕がなく、切羽詰まった感じが強い。余裕を持った日程で懇談会を開くよう要請していただきたい。

村長 おっしゃるとおり、しっかり説明してもらうことは大事である。また質問については、その場で回答できた場合もあったかと思っていますが、その場で回答できず、検討する必要がある、後日になることもあると思います。

事前にはしっかり計画されているものであればと思うのですが、災害等は突然起きるものなので、その辺はちよつと無理があるかと思っています。日程的に余裕のない説明会がこのところあったことは私も感じていますので、今後はできるだけ早めに説明できるように、それぞれのところ

ろに要望していきたいと思っています。



議員 東村邦子

*議会の健全な維持を図る 方策について

質問 地方議員のなり手不足、地方行政への無関心が言われている。市町村議員選挙で無投票当選が全国で2割超えになつてるのが現状だ。

40代、50代の子育て世代、現役世代に声を掛けると、今の議員報酬の額では生活が成り立たないとの返事が返ってくる。ちなみに大鹿村の議員報酬は、2015年調べで月額13万5000円、夏冬の賞与はあるものの、全国地方議会の1667地域のうち1661番目、下から6番目になる。抜本的に議員報酬の見直しが不可欠で、大鹿村議会、行政もぜひ前向きに取り組んでいただきたい。

近々の変更が可能な方策として、議員の政務活動費の導入がある。全国の町村議会のうち20.9%、194町村で実施されているだけで、決して多い数字とは言えない現状だが、議員が個人的に参加する研修会の費用、交通費、村民からの請願や陳情の内容確認の下調べ活動費等、当然認められるべきものと考ええる。

村長 無投票が多いというお話でしたが、大鹿村の住民の皆さんは議会に対して非常に関心が高い村民性なのかなと思っています。

また議員報酬のお話がありました。人口等を比較した中で郡下で1000人前後の町村で比較しますと、中位に位置しているという認識を持っています。

さらに政務活動費というお話がありました。考え方とすれば、ちょっとまだ時期尚早であるかなと思っています。県下58町村中、現在支給は8町のみです。まだ我が村でこれに取り組むのは時期が早いのかなと考えています。

質問 政務活動費について時

期尚早とお考えだが、議員を専門職として進めていくとなれば、活動費の考え方をぜひ考えていただきたい。

議員のなり手不足の解消策は報酬見直しだけではなく、次の世代を担う子育て世代、現役世代とのつながりを堅固なものとして積極的なアプローチが必要ではないか。村の集まりの現状は、住民懇談会は催されるものの、リニア工事などの報告や工事説明など一方的な連絡業務が多く、懇談と称されるような打ち解けて話し合うことがここ数年激減している感があり、残念で仕方ない。村は決まったことしか言わない、若い世代の行政離れはこの辺から発生しているのではないかと思う。

休日のランチミーティングもしくは茶話会のようなリラックスした中で、村の若い方々と会話を広げてほしい。村長もしくは副村長のフレキシブルなシンクタンクとして、季節ごとにでも会を開き、懇親を図っていつてはどうか。ま

ず行政が一步踏み出して次の世代を担う方々のやる気を喚起していただきたい。

村長 懇談会等が少ないとの

ことですが、とりあえず定例的に1年に1回は予算の中身等を説明しながら、ご意見を伺うことはしてきています。不足という感があるということならば、そういうこともあるのかなとは思っています。

具体的にそれではそうしますということはなかなか言えませんが、話し合う機会等、努力するというところでご理解いただければと思います。

質問 最後に、大鹿村議会の

健全な維持と大鹿村の健やかな発展を、心から願ってやみません。



議員 河本明代

*種子法廃止と大鹿村の 農業について

質問 昨年、主要農作物種子

法が廃止されたが、大鹿村の農業等への影響をどうお感じになったか。民間企業の参入によって、地域に適した多様な品種の種が生産されにくくなるのではないかと、遺伝子組換え作物が流入するのではないかなど、いろいろな危惧が言われているが、どう受け止めているか。

長野県では種子法に代わる県独自の条例制定に向けて、1月末に骨子案が公表され、意見募集が行われた。

骨子案では、国の種子法にはなかったソバや「信州の伝統野菜」及び将来に向けて種子生産を継続する必要がある在来品種についても、対象に加えられている。大鹿村で特産品として取り組まれている中尾早生大豆や大鹿唐辛子、お初桃等も、将来に残すべき在来種として県の支援を求めて守っていききたいものと思うが、いかがか。

村長 種子法の中で定められていた稲、麦類、大豆の種子の生産等については、長野県において新たにソバを加え、

これまでの法に定められていた業務を継続することになっているので、特段、大鹿村の農業に大きな影響はないと考えています。

遺伝子組換え作物については別の法律で国の方で対処していると聞きました。

農業というのは個人が努力されて取り組む部分が非常に多いと思いますので、村ですべてをコントロールしていくのは難しいのではないかと思います。

産業建設課長

中尾早生につ

いては平成11年度より選抜試験を行い、15年に平成中尾早生として、村の特産農産物として現在振興しています。大鹿唐辛子についても平成26年度より組合を設立して、村の特産農産物として振興しています。どちらも長野県の改良普及センター職員に種子の管理や栽培について支援していただいている、今後も支援していただく予定です。

お初桃については種の需要があり、最近では1トンぐらい農協に出荷されて農業所得

につながっています。村の残すべき在来種として検討していきたいと思っています。

*要件の緩い就農支援について

国の農業次世代人材投資資金は、大鹿村のような農業の地理的条件が厳しい所においては非常にハードルが高い補助金で、なかなか手を挙げられる人が少ない状況だ。現実的にもっと手を挙げられる人がいるような、要件の緩い支援策が考えられないか。

国連では昨年12月に「小農と農村で働く人々の権利に関する国連宣言」が採択され、今年から「家族農業の10年」が始まる。国際社会では小規模家族農業を重視、支援する方向に舵を切ってきている。鳥根県では半農半Xの方々の支援を行って、自営就農だけではなく兼業就農も加えた幅広い支援を行って定住促進を図っている。

荒廃農地のますますの拡大を食い止めるためにも、多様

な就農希望者を受け入れて育てる施策が求められるのではないかな。

村長

おつしやるとおり、大

鹿村のような条件では、国の目指している農業政策についての支援措置は、なかなか取り入れは難しいと言わざるを得ないと思っています。村独自の支援を考える中では、やはり一定のルールが必要で、農業という非常に幅が広く自由度の高いものを包含したルールを作るのは、なかなか難しいのかなと思っています。

過去大鹿の人たちは、春から秋にかけては水田、養蚕、果樹等取り組んで、秋から春は、古くは炭焼きをしたり、三六災以後は土木事業に携わって現金収入を得ることで、かなりの方が生活を維持されていたと思っています。最近それをあちこちで言っているのですが、雇用面や社会保険など、なかなか受け入れられないのが実情です。大鹿村で半Xをどう求めるかというのは、大きな課題かなと思っています。幾つか例をご提示い

ただきましたので、研究を深めていきたいと思っています。



北島千良穂議員

*リニア車両通行における環境対策について

質問

リニア車両が通行する沿線の各戸において環境対策が行われているが、それぞれの家庭での迷惑もあり、うまく進んでいないようだ。対策としてサッシとエアコンの取り付けをしてくれた家庭が4戸、昼間いる部屋が1室と、玄関サッシを取り替えてくれたが、また不安は残っている。1戸の方は当初の計画どおりにやってほしいとのこと、話し合いは難航しているようだ。防音壁を作ってくれた家庭では、こんな状態になるとは思っていなかったのが困惑しているが、仕方がないのかなとも言っていた。

驚いたことは、リニア対策

室はJRのお手伝いはしても、地域住民の声を説明会以外のところではほとんどと言っていいほどフォローしていないようだ。そのことを今回の対策では特に感じた。対策室は住民側の立場で応援してほしいと考えるが、いかがかな。

村長

JR東海と地元の方々

との懇談会において、個々の話し合いによって進めていくとして話し合われたと私は思っています。このような個々の話については、一般質問という形ではなく、議員の方から聞いたお話をこちらにつないでいただくことが一番の解決方法になるのかなと今考えているところです。

個々の話があるということ、は、JRが思ったままの対策ではなくて、個々の人たちの話を伺って対応していると思いますので、住民側の立場で応援しているつもりなのですが、意見の相違があるかと思いましたが、今後はまたよく取り組んでいきたいと思っています。